

1. 件名：福島第一原子力発電所におけるDエリアタンク未処理水（Sr 処理水）のALPS 処理継続に係る面談
2. 日時：令和3年3月18日（木）17時00分～18時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
大辻室長補佐、知見主任安全審査官  
高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
福島第一原子力発電所 担当3名（テレビ会議システムによる出席）
5. 要旨
  - 東京電力ホールディングス株式会社から、3月16日の面談に続き、2月13日の地震に伴うタンクへの影響に関連し、Dエリアタンクに貯留している未処理水（Sr 処理水）の取扱いについて、資料に基づき主に以下の説明があった。
    - 大雨、台風等により汚染水発生量が増大した場合に備えてタンク空き容量を確保するために、地震後連結管を閉じ運用休止としているDエリアタンクに貯留している未処理水（Sr 処理水）について、地震により滑動したタンクに伴って変位した連結管の復旧時期が未定であることを考慮し、仮設設備により連結管を介さずに水移送を行い、ALPS 処理を継続したい。
    - これまでも仮設のポンプ及びホースにて未処理水（Sr 処理水）を移送した実績があり、今回も同様の移送方法、漏えい防止・汚染拡大防止対策、監視体制等を取る。
    - 移送スケジュールはALPS 稼働状況にもよるが、4月上旬以降に開始し数ヶ月間かかると考えている。
  - 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、
    - タンクの歩廊落下等の2月13日の地震による影響を考慮した作業員落下防止等の安全対策及び作業員の被ばく線量の管理について説明すること等を求めた。
6. その他  
資料：
  - Dエリアタンク Sr 処理水のALPS 処理について

以上